

---

# ほしのした

桜華蒼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ほしのした

### 【Zマーク】

Z4913C

### 【作者名】

桜華蒼

### 【あらすじ】

声がでなくなつた哀ちゃん、一ヶ月後。『その時まで』とはリンクしてますが、話自体は独立していますので、これだけでも読めます。昨日哀ちゃん出てた記念。病院にて、哀ちゃん&工藤くん。何気にlove~loveしあります。

見舞い客のいなくなつた夜の病室に、保護者代理として許可をも  
らい居座る俺。灰原は、何も言わない。といふか、言えない。

1ヶ月前に未完成の解毒剤を飲んで、声を無くしたから。  
ふと何かを思い立つたようにテレビを消した彼女を見れば、くつ  
と、袖を引っ張られる。

天井を見上げ、指で、天井を指す。

「屋上？ 今日開いてるのか？」

こくん、と頷くその仕種。

コミニュニケーションは前より良好だ。

伝えなきや、伝わらなきやといふことがあるからか、灰原は感情  
を素直に表情で表す。元々、お互い考えることはわかるような間柄  
だつたから尚更わかりやすい。

キャラクターものの、パジャマにピンクのスリッパを履いて先に  
部屋を出る彼女。

パタパタ、スリッパの音が反響する廊下。

10時をまわった時刻なので、俺は黙つたまま歩く。階段近く  
のエレベーターに乗つて屋上まで上がる。いつもは鍵の掛かつた  
屋上への扉を、灰原はポケットから出した鍵で開ける。ざつと風  
が、灰原の髪を揺らした。

金網を張り巡らせた奥の方まですたすた行く彼女に声をかける。

「よく鍵貸してもらえたな」

振り返つて、にんまり笑う。

『黒羽さん仕込み』

ぱぱつと手話をした。

「ええ！」

思わず、声を上げ一ヤニヤ笑いの怪盗を思い出した。

『冗談よ。ちゃんと許可もらったわ。今日は流星群が見れるの。 8

時にな、みんなとも見たのよ』

「へー、いやてつきり、な」

『あなたこの頃忙しいみたいだから』

なんか、普通に俺のことを考えてくれてるらしい。そーいうのは、素直に嬉しい、かなり。

俺は灰原が見ている方角に目をやつた。

群青色の空の、雲の間から光が一筋流れた。  
と、二つ、三つと次々に星が流れ出す。  
しばらく、流れを目で追いかける。

「あ!」

『なに?』

物思いに耽っていた彼女の抗議の目。

「やべつ。願い事すんの忘れてた!」こんだけ星が降つてりや叶えてくれるよな」

パンつと手を叩いて、俺は真剣にぶつぶつ呴く。  
呆れるような視線がびしひし伝わってくる。

「なに傍観してんだよ、オメーはしねーの?」

『歳いくつ?』

俺は灰原を後ろから抱きしめるような格好で、彼女の手を自分の手で包む。

「なんかあるだろ?」

顔を覗きこむと、目一杯逸らされた。

凹む。苦笑して、空を見上げた。

それから、15分後、『いつまで引っ付いてるつもり? いい加減暑いんだけど』のジト目と空がいつもの色を取り戻したのを見てから、病室に戻る。

時計は10:40。流石にお暇しなくては、と身仕度を始める。  
ベットに潜った灰原の頭をポンポン叩く。

「またくるな」

『願い事、なに?』

少し曇るような瞳。

「灰原がこれからも幸せなよう』

最初は、早く声が聞きたないと思つていた。欠けたものがあることは不幸なのだと。

でも、灰原は笑つている。だから、この状況は幸せなんだと。声がなくても、いつも簡単に俺の心を救い上げる彼女がいるだけで、俺は幸せだから。

『今日は夢できつとあなたに会つわ』

そう笑つた。

こんなこと、言つてはくれないから。

『じゃあ、また夢で』  
やつぱり幸せだ。

END ▲

(後書き)

アニメラストの企画は、コナンっぽい、実は哀ちゃんの気持ちに気が付いてるような予感。素敵だ！ 次回予告も哀ちゃんを自分の陰に隠す過保護っぷり。バンザイ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4913c/>

---

ほしのした

2010年10月23日13時34分発行